

<p>1 ポリシー スクール</p>	<p>□ グラデュエーション・ポリシー 1 人権尊重の精神をふまえ、誠実で協調性に富む人 2 個性を伸ばし、独創性豊かな人 3 勤労をたっとび、努力をおしまない人 4 進歩する工業技術・情報技術に対応できる人</p>		
<p>2 中期的 目標 と 方策</p>	<p>(1) 学校経営 Next Kogyo START Project 並びに Tokyo P-TECH・DX ハイスクール事業について、校内の実施体制を整備し、教職員の創意工夫と関係機関との連携協力を推進し、高い次元で実現する。 また、新たなデジタル技術を見据えた情報教育の在り方を検討し、時代のニーズに対応した教育活動を展開する。</p>	<p>(2) 学習指導 観点別学習状況の評価に基づき、新たな学力観をふまえた指導計画や評価計画の実効性を高めるとともに、様々な学習機会を活用し多面的な学力の向上を図る。様々な技術やサービスを積極的に導入し、総合情報科にふさわしい、新たな町工学びのスタイルを提供していく。</p>	<p>(3) 進路指導 生徒の進路希望が多様化する状況をふまえ、個に応じた進路指導の一層の充実を図る。そのために、キャリア教育の全体計画に基づき、外部と連携した取組をさらに推進し、資格取得支援や専門性の向上施策を活用した指導を通して、生徒の進路に対する意識と意欲を高める。</p>
<p>3 今年度の 取組目標 と方策</p>	<p>(1) 教育目標と方策 教育課題に正対し、具体的な改善策を展開することで、地域から信頼され求められる学校とする。  ①生徒の状況をふまえた教育計画を策定し、学年・分掌・教科を単位として組織的な指導を展開する。 ②学習指導要領に基づく教育課程の評価を行うとともに、教育課程の改善について協議を継続する。 ③「Tokyo P-TECH」「DX ハイスクール」事業による IT 人材育成のためのプログラムの計画的・継続的な指導を推進し、その成果を内外に発信する。 ④経営企画室は、予算・経理・施設・人事等の観点から経営企画室事務処理方針を定め、人材育成を図るとともに業務の執行体制の強化を図る。 ⑤教職員個々の状況をふまえた人材育成を組織的に行う。 ⑥ライフ・ワーク・バランスの高い次元での実現に向け、職場内の文化を醸成し、組織的な体制を構築する。</p>	<p>多様な学びのスタイルを検討し、様々な学習支援ツール・サービスを活用し、町工学びのスタイルを確立する。  ①観点別学習状況の評価に基づく、多様な多面的な学習評価を展開し、生徒の学習意欲を高め、学力の伸長を図る。 ②変化する情報社会の状況をふまえ、1人一台端末等を活用した新たな学習スタイルを検討し展開する。 ③C4th、定期考査採点・分析システム、オンライン学習教材の活用を促進し、学びの質の向上を図る。 ④工業情報数理の科目指導内容については、教科「情報」との関連から大学受験も見据えた内容とする。 ⑤PBL を活用した学びを展開する。 ⑥教科「人間と社会」を生活指導とも関連付けながら計画的に実施する。 ⑦科目の修得に必要な学習指導を適時適切に実施する。 ⑧大学進学を希望する生徒に対し、必要とされる教科の学力を身に付けさせる。</p>	<p>社会で必要となるスキルを育成し、組織的な進路指導を通して「生徒の希望進路の実現」を果たす。  ①進路行事、面談週間、HR などを有効に活用し、継続的な粘り強い進路指導をとおして進路決定率 100%とする。 ②キャリア教育の全体計画に基づき、様々な機関と連携した活動を通して、具体的な進路意識の向上を図る。 ③企業講話、ものづくり講話等で積極的に外部人材を活用し、インターンシップの効果的な実施につなげるなど、生徒の職業観を醸成する。 ④これからの社会で必要とされる、資質・能力を、日々の学習活動や特別活動、キャリア教育等の機会を活用し、意図的・計画的に育成する。 ⑤町工グローバル IT エンジニア育成プログラムに基づき、海外学校間交流事業を推進し、国際感覚を有したグローバルに活躍できるエンジニアを育成する。 ⑥資格取得を推進し、進路に関する意識を高めるとともに、希望する進路を実現する力を育成する。</p>
<p>(2) 重点目標と方策</p>	<p>①教育課程の確実な実施と評価をふまえた改善策の検討 Next Kogyo START Project 並びに Tokyo P-TECH・DX ハイスクール事業を含む教育課程の評価を行い、課題や改善点を明確にし、教育課程についての検討を継続する。 ②観点別学習状況の評価に基づいた指導計画・評価計画の改善 観点別学習状況の評価の理念や目指す学力観を教職員で共有し、その実現に努める。C4th、定期考査採点・分析システム、オンライン学習教材の活用を促進し、学びの質の向上を図る。ICT を活用した分かる授業を推進するとともに、オンライン授業実施のための条件整備を行い積極的な活用を図る。 ③希望者就職率 100% 及び希望者進学率 100% 多様な生徒の希望進路に対応するため、多様な大学入試制度を活用した進学指導と系列の専門性を生かした就職指導を展開する。教員による企業訪問やインターンシップの充実を図り豊かな就職先を確保する。資格の取得を推進しジュニアマイスター取得を目指す。 ④経営企画室の経営参画体制の強化 学校の経営計画や教育活動の状況を的確に把握し、予算・経理、施設、学事私費会計、給与、人事等の側面から、実施の可能性や規模・時期・優先順位等を判断するなど、学校経営を補佐する体制を整備する。</p>		

<p>□ カリキュラム・ポリシー          グラデュエーション・ポリシーをふまえ、時代とともに変化する総合情報科として必要とされる専門性や資質・能力を明確にし、あらゆる機会と方法を検討した教育課程を展開する。</p> <p>□ アドミッション・ポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の特色を十分に理解し、本校での学習に明確な目的意識や希望をもっている生徒</li> <li>2 主にコンピュータ活用に関する科学技術分野に興味・関心があり、意欲的に学習する生徒</li> <li>3 工業に関する資格取得に興味・関心をもち、入学後もその取得に向けて意欲的に取り組む生徒</li> <li>4 学校や社会の規則を守り、日々の学校生活で粘り強く努力を重ねる生徒</li> <li>5 学校行事や部活動、生徒会活動等に積極的に取り組み、豊かな人間関係を育む生徒</li> <li>6 人を思いやり、協力して物事に取り組み、社会に貢献する意識のある生徒</li> </ol>		
(4) 学校生活と健康づくり	(5) 特別活動	(6) 広報活動と地域連携
<p>生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底し、体力向上を図る。</p> <p>人権に関わる、今日的な課題について、社会状況をふまえた適切な判断に基づき、生徒指導の在り方について共通理解を深め、新たな指導基準と体制の整備を図る。</p>	<p>新たな部活動のスタイルを構築する。体育祭や文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を引き出し、望ましい社会体験の場を創造する。生徒会活動・委員会活動の活性化を図るとともに、主権者教育の充実を通して、成人としての自覚と資質・能力を育成する。図書室の利用を促進し読書活動の充実を図る。</p>	<p>本校を志す生徒を増やすため、SNS等を積極的に活用し、本校の魅力を発信する。募集・広報活動の工夫・改善を行い「推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜」の応募倍率の向上を図る。教職員による中学校訪問、管理職による学習塾等への訪問を実施し、本校への理解促進と地域連携の充実を図る。</p>
<p>生徒が校則の意義を考え理解を深める指導を展開する。人権課題に対する教職員の共通理解を図り、生徒指導の在り方について検討と改善を進める。</p> <p>①身だしなみや言葉遣いに関する指導と挨拶ができる指導を継続して実施する。          ②特別支援教育の視点をふまえて、生徒情報を共有し個々の生徒に適切な指導を展開する。          ③日々の面談やアンケートの活用を通して生徒理解を深め、いじめの早期発見、いじめの解消に向けて組織的に対応する。          ④生徒個々の悩みや不安などに丁寧に寄り添うとともに充実した学校生活が送れるよう適切な支援を行い、生命に関わる事故の発生を0とする。          ⑤生徒一人一人が、校則の意義について理解を深め遵守する姿勢を培うとともに、今日的な人権課題について、校内の教職員によるコンセンサスを形成し、生徒に好ましい判断力を身に付けさせ、実践的な行動力を育成する。          ⑥校歌を歌えるようにする。</p>	<p>生徒が諸活動に取り組む中で、主体性や積極性、他を思いやる心を育み、体力・気力を養い、困難な状況にあっても「くじけぬ心」を育てる。</p> <p>①新たな部活動の在り方を検討するとともに、学校生活の充実と生徒の主体的な態度の育成を図る。          ②自主的・自律的な学校生活づくりに向けて、生徒会活動を推進し活性化を図る。          ③部活動等の特別活動に限らず、体罰及び不適切な指導が行われることのないように、全教職員への周知を徹底し、服務事故防止研修等を通して適切な指導体制を整える。          ④文化祭や体育祭などの全校で取り組む学校行事について、生徒会及び各行事の実行委員会等と担当教員とのコミュニケーションを活性化し、意見を集約・精選して学校全体の取組として一層の充実を図る。          ⑤読書活動を推進する取組を計画・実施し、図書貸出数1,720冊以上とする。          ⑥選挙管理委員会等と連携した体験活動により主権者教育を計画的に進める。</p>	<p>ホームページやSNSを活用し、中学生やその保護者に本校の魅力を発信し募集対策を強化する。また、地域行事等への参加を推進する。</p> <p>①学校教育活動に関する適時適切な情報発信を行い、本校の教育活動に関する理解促進を図る。          ②中学校への出前授業、本校での体験学習を実施し本校の特色ある教育内容を紹介する。          ③授業公開、学校見学会、学校説明会、個別相談会を適切な時期で実施する。参加組数400組を目指す。          ④本校の特色や強みを伝えるため、学校説明会などの募集活動の充実を図る。          ⑤町田市商工会議所など、地域産業を中心とする企業との連携を推進する。          ⑥学校開放事業を推進し地域との連携により開かれた学校づくりを実施する。          ⑦「都立工科高校ドリーム・フェスタ2026」等のPR機会を適切に活用し、工科高校の理解促進を図る。          ⑧地域の学習塾等への情報提供を積極的にを行い、理解促進に努める。</p>
<p>⑤社会のルールや人権に関する理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車登下校時のヘルメット着用指導の充実を図り、着用率を50%以上とする。</li> <li>・ルールを守る生徒の割合を99%以上とする。</li> <li>・年間の延べ遅刻回数を4,110回以下とし、中途退学率2.5%以下とする。</li> </ul> <p>⑥生命に関わる事故の未然防止</p> <p>生徒理解と状況把握に努め、教職員相互の情報共有を促進し、生徒との信頼関係の構築と丁寧な指導を継続し、生命に関わる事故の未然防止に努める。</p> <p>⑦服務事故の防止とライフ・ワーク・バランスの実現</p> <p>適切な服務事故防止研修の実施と職員の状況把握により服務事故の発生を0とする。また、ICTの積極的な活用を促進し業務の効率化を図り教職員のライフ・ワーク・バランスのさらなる改善を目指す。</p> <p>⑧本校の強みをいかした地域連携の強化</p> <p>町田市少年少女発明クラブやものづくり文化振興協会との連携により、幅広いモノづくり教育を展開するとともに、ただONや地域の小中学校等、地域コミュニティーとの連携を強化し、本校を希望する生徒の増加を図る。</p>		